

# コムクドリ

*Agropsar philippensis* (Forster)  
スズメ目・ムクドリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

繁殖記録等の記録の多くが嶺北の河川敷に集中しており、生息分布が狭い。

## 分 布

夏鳥として、中部以北に4月上旬～下旬に渡来する。本県では繁殖期の記録のほとんどが、嶺北の河川敷に限られ、それ以外の地域では渡りの時期の記録があるに過ぎない。

## 種の特徴

全長 19 cm。雄は頭部、下腹～腰、下尾は淡いクリーム色、頬～耳羽後方に茶色の斑があり、背と肩羽は紫色の光沢がある黒色である。ガ類やクモ類、エノキ等の果実を食べる。平地～山地の明るい林の樹洞を利用して繁殖する。

## 生息を脅かす要因

本県での生息・繁殖状況は解明されていないが、河畔林で繁殖している可能性が高いため、河川改修等で樹林が伐採されると、生息及び繁殖環境が悪化すると推察される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○					○			○	○	○	○	○		○

# コサメビタキ

*Muscicapa dauurica* Pallas  
スズメ目・ヒタキ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

県内の低山帯で繁殖するが、得られた記録の多くが春と秋の渡り時期に県内を通過しているものであり、繁殖記録はごくわずかである。

## 分 布

九州以北の低地～低山の落葉広葉樹林に夏鳥として渡来し、繁殖する。本県では春と秋の渡り時期に、県下一円の落葉広葉樹林や公園の林で、姿をみることが多い。

## 種の特徴

全長 13 cm。全身灰色～白色の地味な小鳥であるが、枝先に止まることが多く、渡りの時期等はよく目に付く。樹間を飛ぶ小形の昆虫類を空中で捕獲し、再び元の枝に戻るフライングキャッチをよく行う。横枝にコケや地衣類でカモフラージュしたお椀型の巣を作る。

## 生息を脅かす要因

県内では繁殖記録が少ないこと、低山～山地のよく茂った落葉広葉樹林に生息すること等から、成熟した落葉広葉樹林の保全が重要である。里山林を活用した公園等では、伐採が制限されるので、本種の良好な生息地となっている可能性がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、叶内ら（1998）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○							○		○	○

# ニュウナイスズメ

*Passer rutilans* (Temminck)  
スズメ目・スズメ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

奥越地方の限られた地域で少数の繁殖記録が存在するが、その存続基盤は脆弱である。一方、六呂師高原は渡り期になると、時には1,000羽を超える群れが飛来することから、重要な中継地である。

## 分 布

夏鳥または漂鳥として本州中部以北で繁殖し、中部以南で越冬する。本県では奥越の一部で繁殖しているが、秋季に農耕地や草地に飛来する群れをみるが多い。

## 種の特徴

全長約 14 cm。雌雄異色で、雄の上面は赤栗色で体下面は濁白色、雌は全体的にくすんだ褐色をしている。中部以北の積雪の多い地域の落葉広葉樹の樹洞で繁殖するが、人家や巣箱にも営巣する。繁殖期は樹上で昆虫類を捕食するが、越冬期はイネ科の種子食である。

## 生息を脅かす要因

森林の伐採による樹洞の減少が考えられるため、樹洞が形成される大径木の保全が求められる。また繁殖個体群を保全するためには、営巣している民家の保全、巣箱や木の電柱の設置等が効果を発揮するであろう。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、日高（1996）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○			○		○	○			○	○	

鳥  
類